

Title	慢性疼痛対策として科学的な政策を行うための研究動向調査
Author(s)	江藤, 亜紀子
Citation	年次学術大会講演要旨集, 37: 327-330
Issue Date	2022-10-29
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/18487">http://hdl.handle.net/10119/18487</a>
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

## 1 D 2 2

# 慢性疼痛対策として科学的な政策を行うための研究動向調査

○江藤 亜紀子（国立保健医療科学院）

### 1. はじめに

科学的な政策を実施するため、研究の成果を意思決定者へと伝える枠組みと方法論の開発が行われてきた。特に、医学生命科学の分野においては、evidence-based medicine の手法が確立されている。

慢性疼痛は、有症状者が多く、高齢者社会において、医学的、社会学的に重要な課題である。自然災害等などの健康危機においても、慢性疼痛に対する対策が必要である。

本研究では、体系的に研究成果を分析し政策実施者に情報として伝えるためのいくつかの方法が、慢性疼痛対策の政策のための分析に適用されてきた研究動向について調査を行ったので報告する。

### 2. 研究方法

#### 2-1. 先行研究

2020年に、International Association for the Study of Pain (IASP)は「痛み」の定義を更新した [IASP, 2020]。その定義によると、痛みとは「実際の組織損傷もしくは組織損傷が起こりうる状態に付随する、あるいはそれに似た、感覚かつ情動の不快な体験」（日本語訳）[日本疼痛学会、2020]である。

さらに、IASPは、痛みのコンテキスト拡張のために6つの注釈を示している。それらの中には、痛みは個人的な経験であること、生物学的、心理学的、社会学的な要因の多様性により影響を受けること、痛みと侵害受容とは異なる現象であること、痛みの経験に関する個人の報告は尊重されるべきであることが含まれる [IASP, 2020]。慢性疼痛の研究において、その科学的評価は、個人の報告による主観的評価、および、医学的な指標を用いる客観的評価が混在している。

#### 2-2. 調査方法

研究動向の調査は、文献データベースを用いて行った。文献データベースはPubMed (National Library of Medicine)等を対象とした。慢性疼痛の研究成果の体系的な分析を行った研究を抽出するため、体系的な分析方法の用語を含めた調査を行い、研究動向の特徴の分析を行った。調査の対象期間は制限を設けず、2022年9月2日時点の結果を分析した。アブストラクト、英語以外の言語による文献は除外した。

### 3. 慢性疼痛の研究動向と政策

#### 3-1. 研究成果の体系的な分析方法

##### 1) ヘルステクノロジーアセスメント (Health Technology Assessment, HTA)

米国 National Library of Medicine (NLM)による「ヘルステクノロジーアセスメント」の Medical Subject Headings (MeSH)定義を表1に示した。ヘルステクノロジーアセスメントは、米国では、1972

年に米国議会技術評価局 Office of Technology Assessment (OTA)を設立し、専門家による技術評価を組織的に行った(1995年に同局は廃止)。

日本では、1990年代後半に厚生労働省がHTAに関するいくつかの委員会を設置した[Hisashige, 2009]。HTAの適用は、医療政策に対しては積極的には行われず、エビデンスベースの臨床ガイドラインの開発が主に行われた[Hisashige, 2009]。

## 2) 比較効果研究 (Comparative Effectiveness Research, CER)

2009年にアメリカ復興・再投資法 (American Recovery and Reinvestment Act) の中で推進が決められた[Institute of Medicine, 2009]。MeSH定義は表1の通りである。

### 3-2. 慢性疼痛の研究動向

#### 1) ヘルステクノロジーアセスメント

慢性疼痛の研究分野において、ヘルステクノロジーアセスメントの観点から行われた研究の動向をレビュー研究とオリジナル研究とに分けて図1に示した。期間中の研究総数は70件であった。1988年以降に研究が見出され、2006年から2011年の期間に年に2-4件の研究が行われた後、2015年以降、再び研究が増加し、2021年を除き、年に3件以上の研究が行われている。1988年から2022年までの調査期間におけるレビュー研究の割合は30%であった。2015年以降に、オリジナル文献による研究成果の報告の割合が増加していた。

#### 2) 比較効果研究

比較効果研究の観点から慢性疼痛について行われた研究は、調査期間において35件が該当した。期間中の研究数の動向を、レビュー研究とオリジナル研究とに分けて図2に示した。レビュー研究の割合は、約17.1%であった。オリジナル研究が2016年以降に増加が認められた。

### 3-3. 慢性疼痛対策の政策

#### 1) 米国の政策

米国は、2010年台を「痛みの10年」として慢性疼痛の研究を推進した[Institute of Medicine, 2011]。

#### 2) 日本の政策

厚生労働省の慢性疼痛対策は、今後の慢性の痛み対策について(提言)に基づいて行われている[厚生労働省「慢性の痛みに関する検討会」]。主な施策は「慢性の痛み対策ホームページ」及び「慢性の痛み情報センター」である[厚生労働省HP(a)]。研究推進の施策としては、慢性の痛み政策研究事業が行われている[厚生労働省HP(b)]。

## 4. 課題

疼痛の測定には科学的に確立されたバイオマーカーが存在せず、患者本人の主観的報告が主となる。主観的報告は一般的に客観性がないと考えられるため、政策立案にあたり、主観的測定に基づく研究成果から科学的な政策へとつなげることが課題となる。

表 1. 分析方法の用語の MeSH 定義

研究方法	Medical Subject Headings (MeSH) 定義 [National Library of Medicine (NLM)]
ヘルステクノロジーアセスメント (HTA) Technology Assessment, Biomedical (1)	Evaluation of biomedical technology in relation to cost, efficacy, utilization, etc., and its future impact on social, ethical, and legal systems. Year introduced: 1980
比較効果研究 Comparative Effectiveness Research (CER) (2)	Conduct and synthesis of systematic research comparing interventions and strategies to prevent, diagnose, treat, and monitor health conditions. The purpose of this research is to inform patients, providers, and decision-makers, responding to their expressed needs, about which interventions are most effective for which patients under specific circumstances. (hhs.gov/recovery/programs/cer/draftdefinition.html accessed 6/12/2009) Year introduced: 2010

(1) <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/mesh/68013673>

(2) <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/mesh/68057186>

図 1. ヘルステクノロジーアセスメント (HTA) の観点から行われた慢性疼痛の研究動向

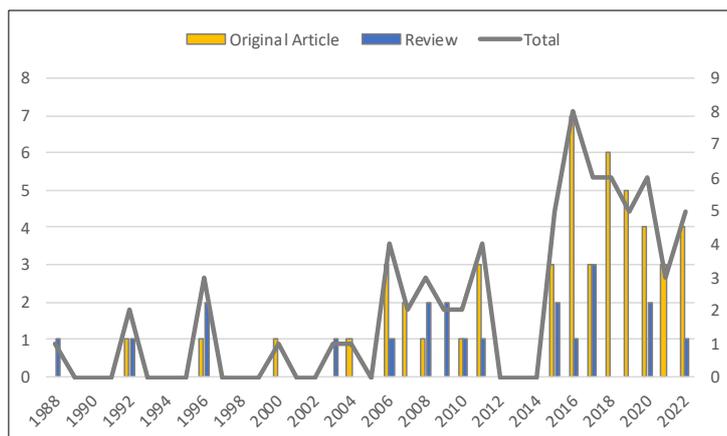
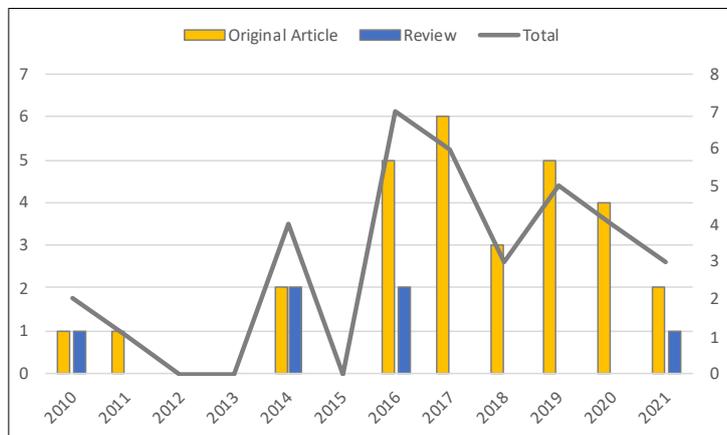


図 2. 比較効果研究 (CER) の観点から行われた慢性疼痛の研究動向



## 参考文献

IASP HP. 2020 <https://www.iasp-pain.org>

日本疼痛学会 HP. 2020 痛みの定義 2020 日本語訳.

[http://plaza.umin.ac.jp/~jaspain/pdf/notice\\_20200818.pdf](http://plaza.umin.ac.jp/~jaspain/pdf/notice_20200818.pdf)

Medical Subject Headings, National Library of Medicine. Technology Assessment, Biomedical.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/mesh/68013673>

Akinori Hisashige. History of healthcare technology assessment in Japan. *Int J Technol Assess Health Care*. 2009 Jul;25 Suppl 1:210-8

Institute of Medicine. 2009. Initial national priorities for comparative effectiveness research. Washington, DC: The National Academies Press.

Medical Subject Headings, National Library of Medicine. Comparative Effectiveness Research.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/mesh/68057186>

Institute of Medicine (US) Committee on Advancing Pain Research, Care, and Education. *Relieving Pain in America: A Blueprint for Transforming Prevention, Care, Education, and Research*. Washington (DC): National Academies Press (US); 2011.

厚生労働省「慢性の痛みに関する検討会」. 今後の慢性の痛み対策について(提言). 平成 22 年 9 月

厚生労働省 HP (a). 慢性疼痛対策. (アクセス 2022 年 9 月)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/manseitoutsuu/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/manseitoutsuu/index.html)

厚生労働省 HP (b). 研究事業. (アクセス 2022 年 9 月)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyuu/index.html>